

[村山会場]

令和5年度山形県農地集積・集約化プロジェクト会議研修会

持続可能な農^む村^らづくり

～地域が一体となって取り組む地域計画～

山形県農^む村^らづくりプロデューサー

高 橋 信 博

今日のお話しの概要

「地域創生」と謳われるが？

- 人口が減少し後継者も心配
- 住民同士のコミュニティが薄れ
- 地域の維持機能すら崩壊寸前
- 土地や建物の管理もままならず



※この現状の中、私たちが今やらなければならぬことを考えるための、
話題提供です。

現場の現状を診断し…

誰を相手にして？

どのような方法で？

どう解決していくのか？

何もしなければ

誰も動かない

そして何も変わらない

いまの現実を受け入れ

継続した暮らしを手にする

これを可能にするのは

生き残りをかけた

本気の話し合い以外ない

50年前から山形では

ほ場整備が真っ盛りの時代

- 課題解決を狙って事業を推進
- 当時の課題とは何だったのか？

☆事業の実施によって

課題は本当に解決したのか？

今後地域で課題になると予想されることは何ですか？

5.農地や水路、山林の維持

7.後継者

6.草刈りなどの共同作業

14.経済的なこと

1.自動車等が運転できなくなった場合の交通手段

11.雇用の場

3.自治会活動の継続

8.結婚相手

4.集落の消滅

2.病院などの医療機関

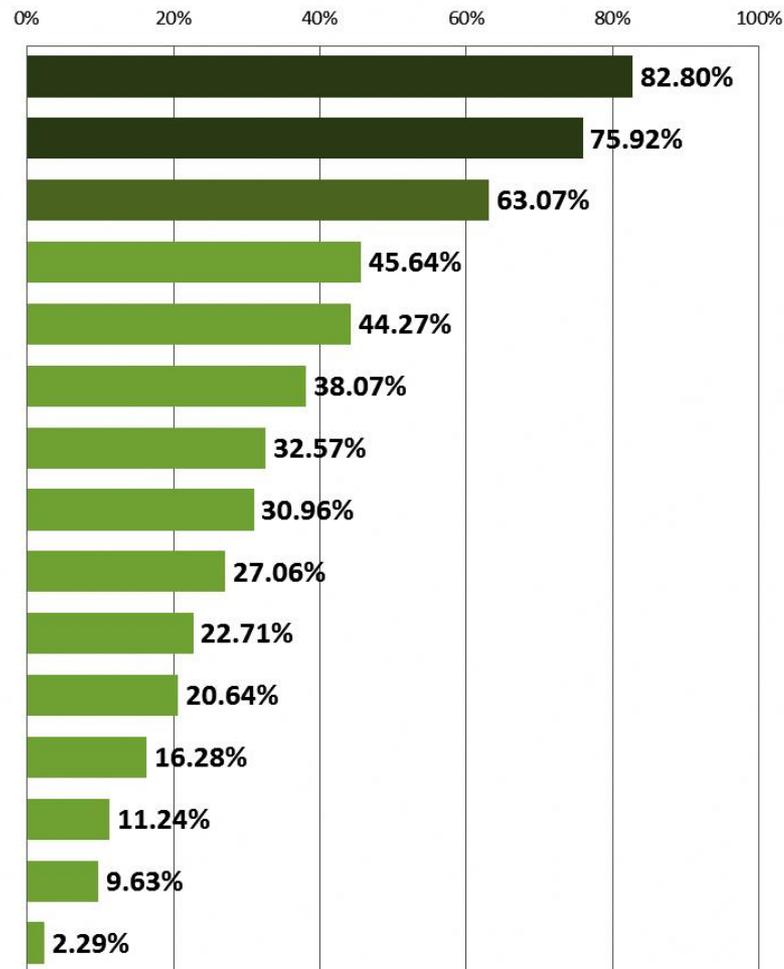
12.老人ホームなどの介護環境

10.小・中・高校の通学

9.保育所などの子育て環境

13.安全な地域

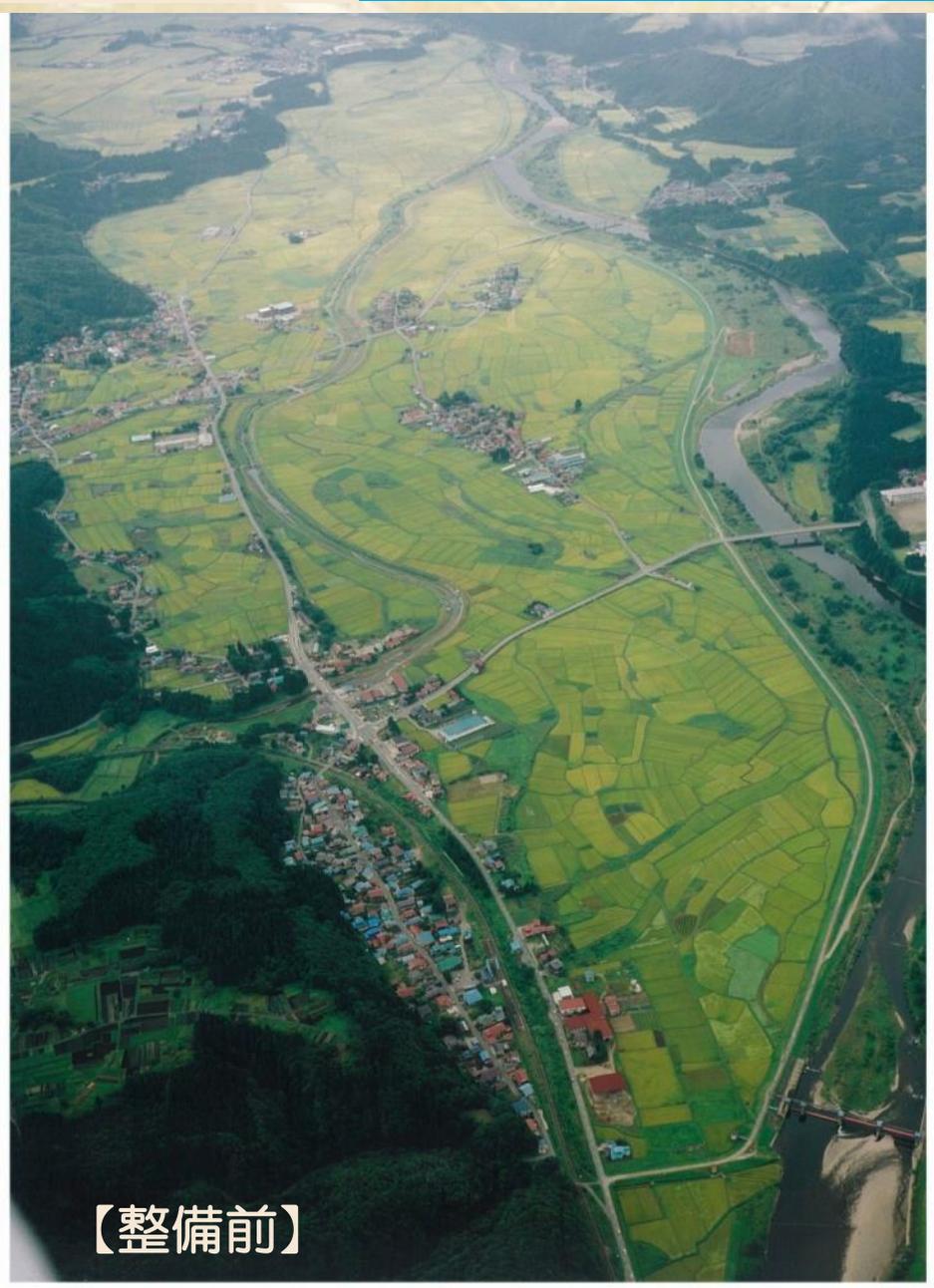
15.その他



**本当の課題は何なのか？
解決なんてできるのか？**

50年間の課題の積み上げ

- ★就農者の高齢化
- ★生まれない後継者
- ★農産物価格の低迷
- ★雇用に成り得ない農業
- ★一向に進まない産地化



【整備前】



【整備後】

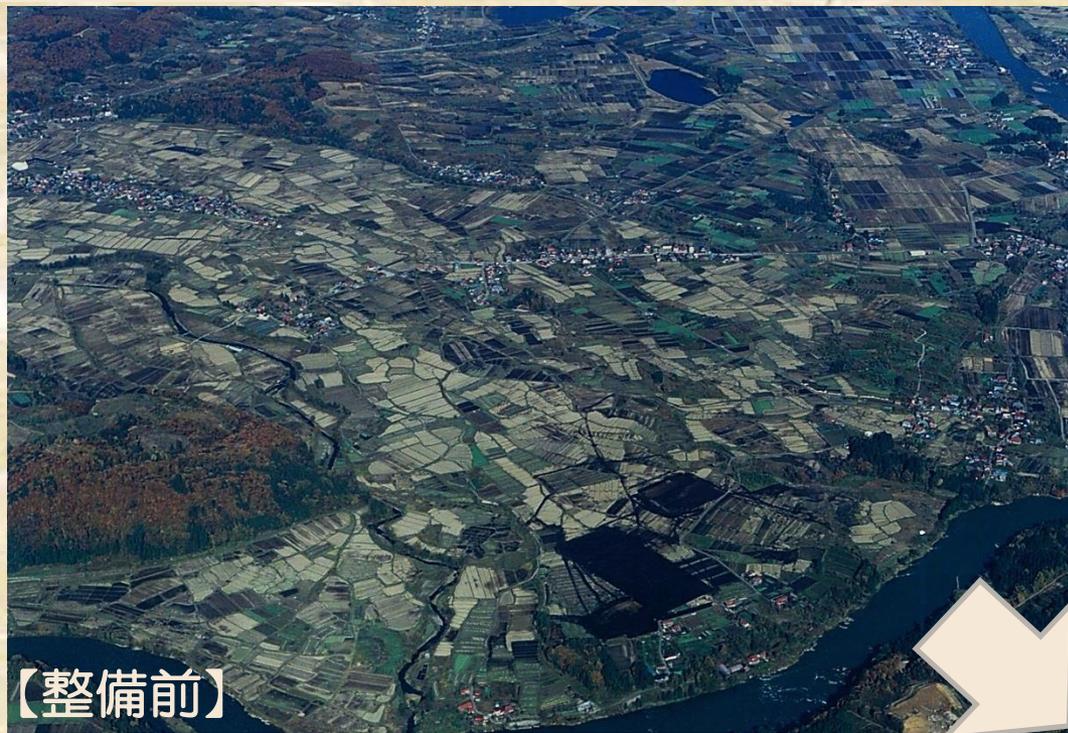


やまがた
棚田20選

小倉
(上山市)



【整備後】



【整備前】

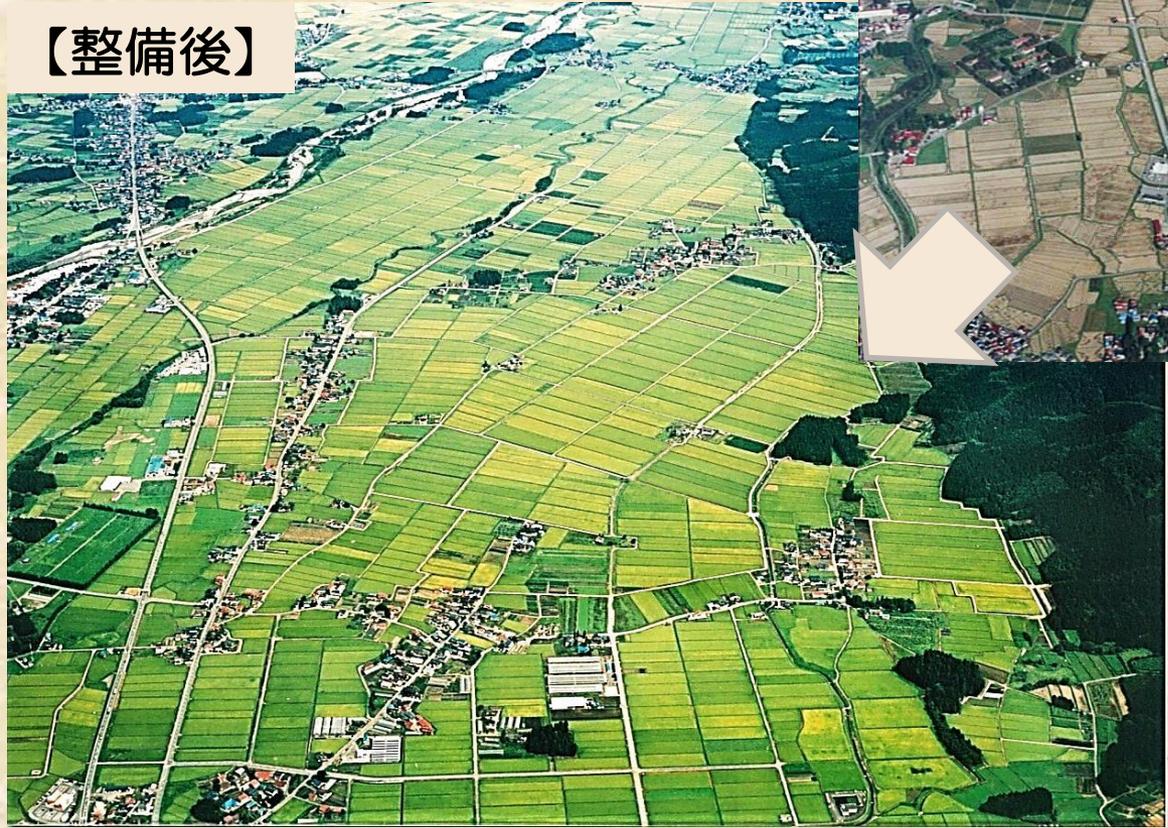


【整備後】

【整備前】



【整備後】

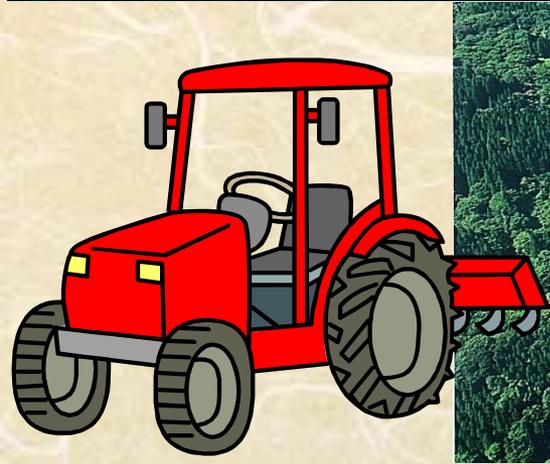


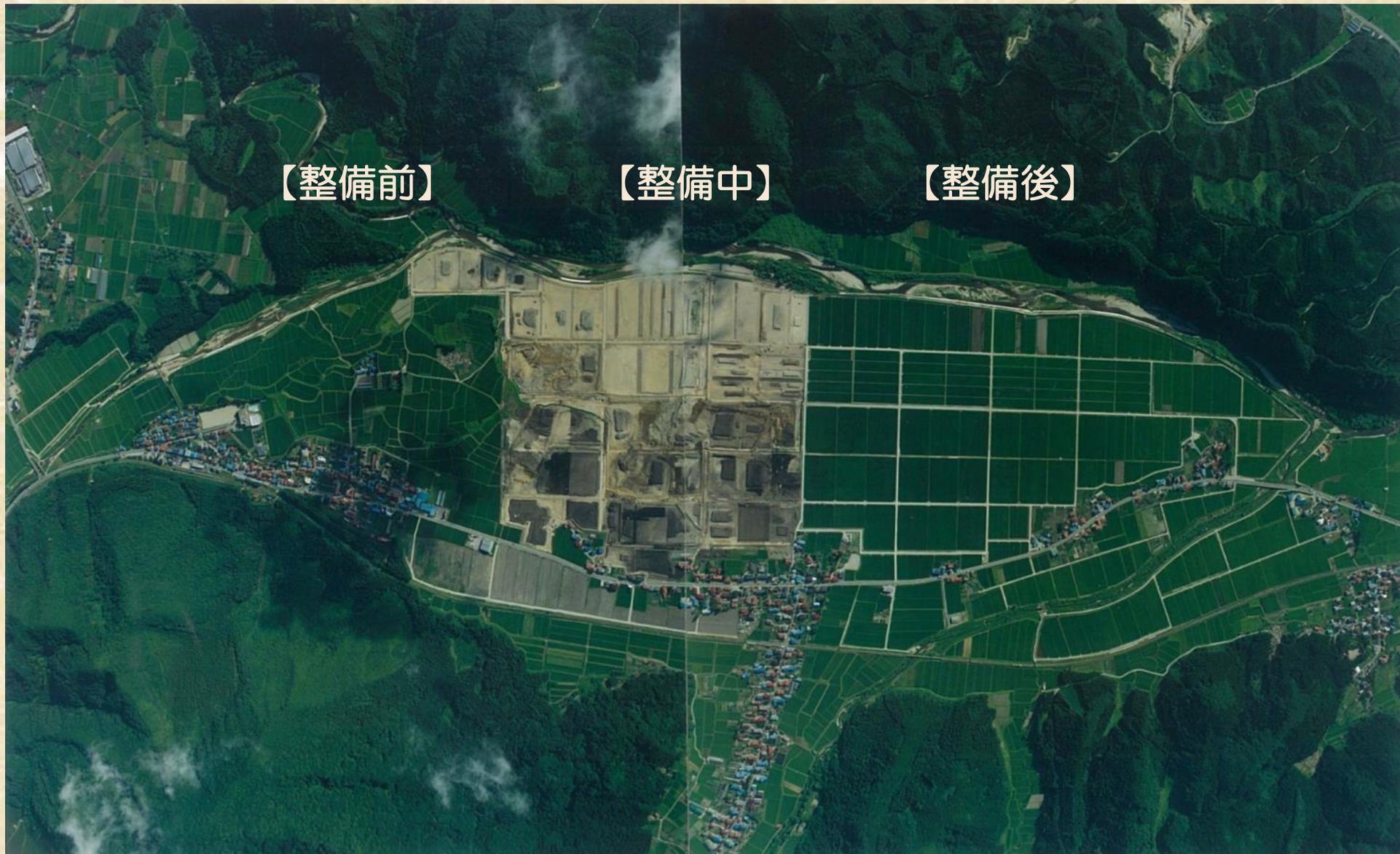


【整備前】



【整備後】





ほ場整備における集積集約化・低コスト化・省力化

< 西郷北部地区の事例 >

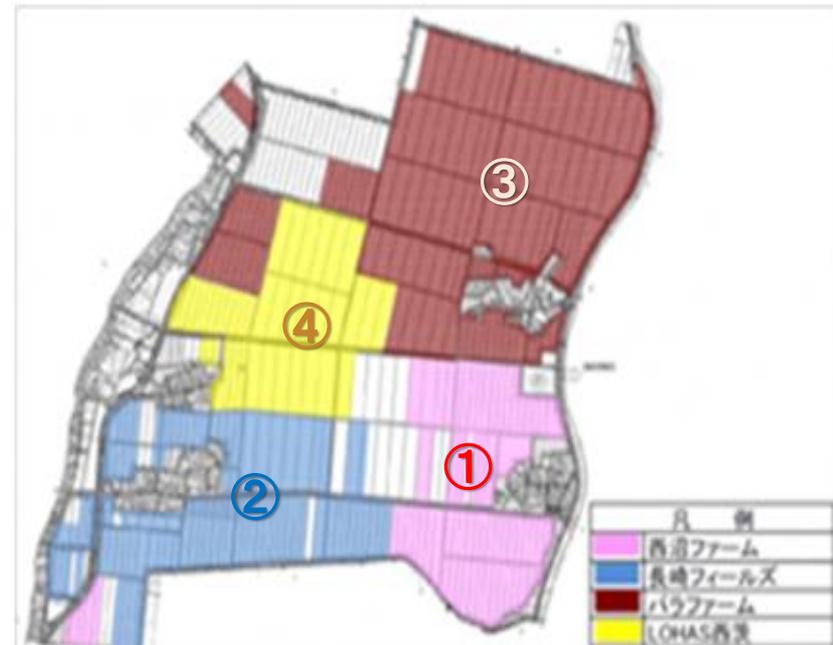
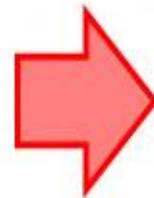
【集積・集約化】

※農用地利用の効率化・高度化

⇒ 生産性の持続的な向上

【スマート農業への期待】

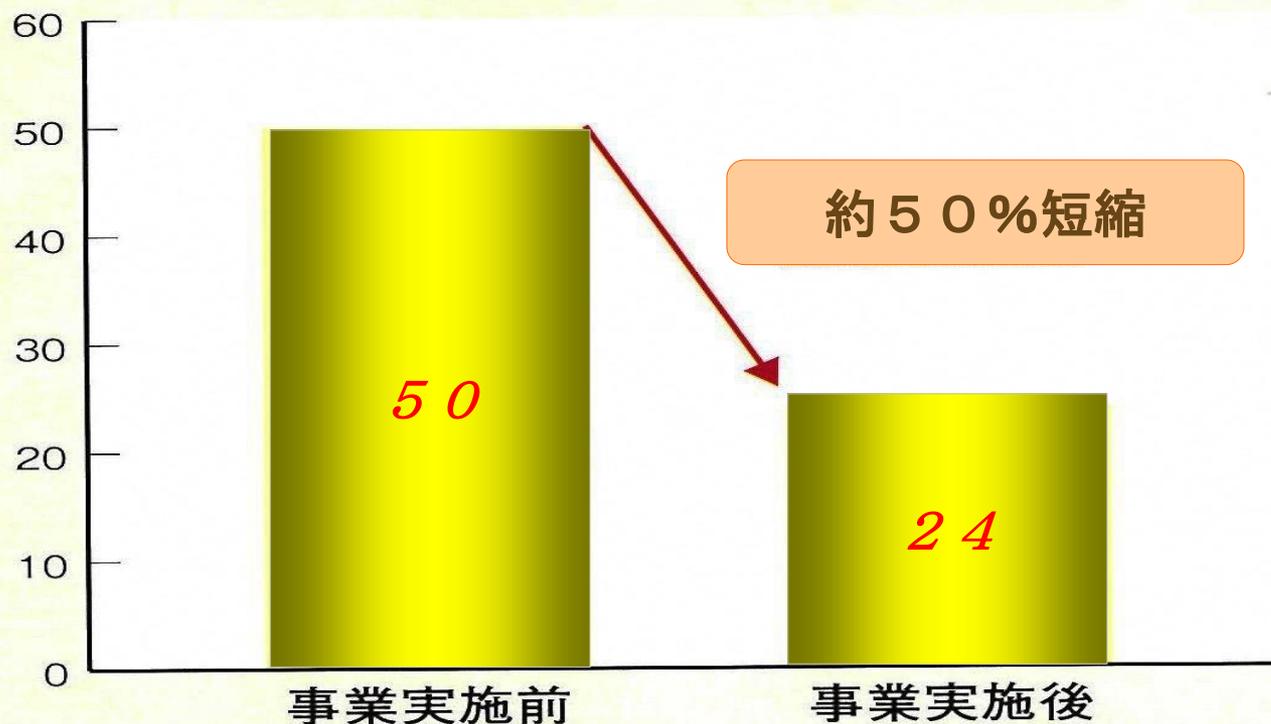
○地区受益面積 303ha の内、**地区の 83.5% (253ha)** を 4 農業法人に農地中間管理事業を活用し集積を促進し、集積・集約化を図った。



もたらされた大きな効果 I

稲作労働時間

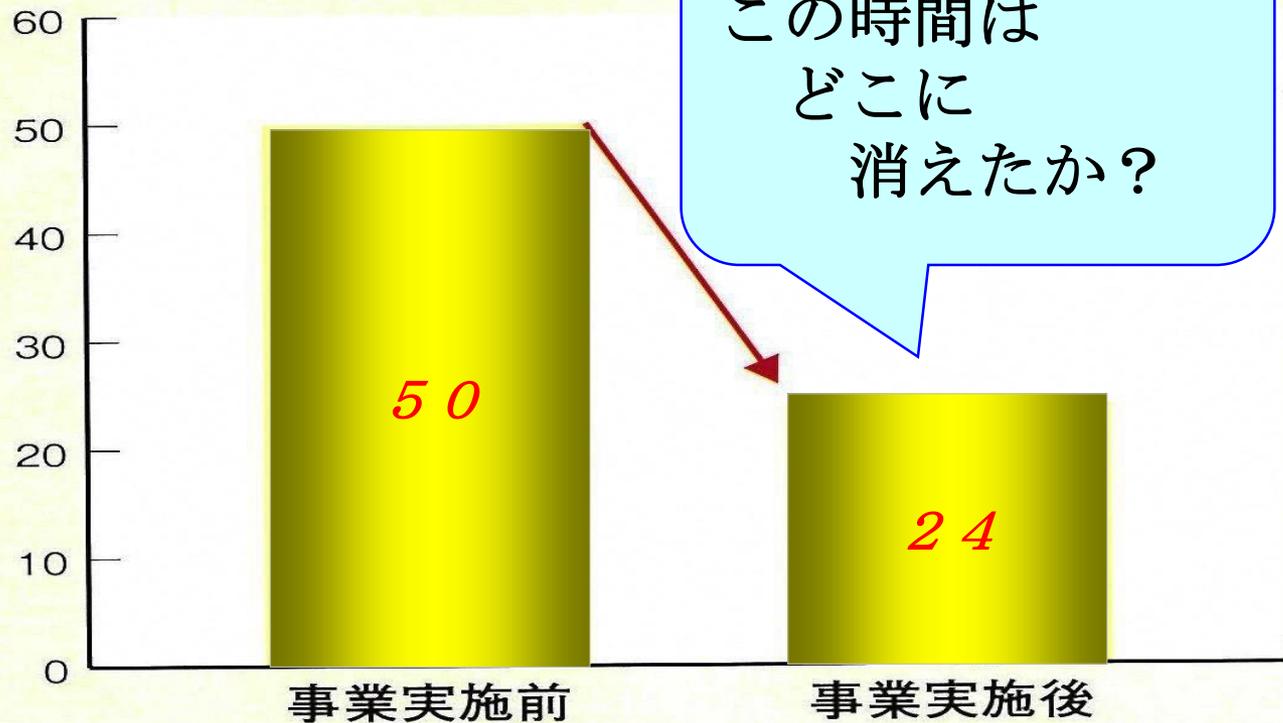
時間/10a



効果の裏の大きな損失

稲作労働時間

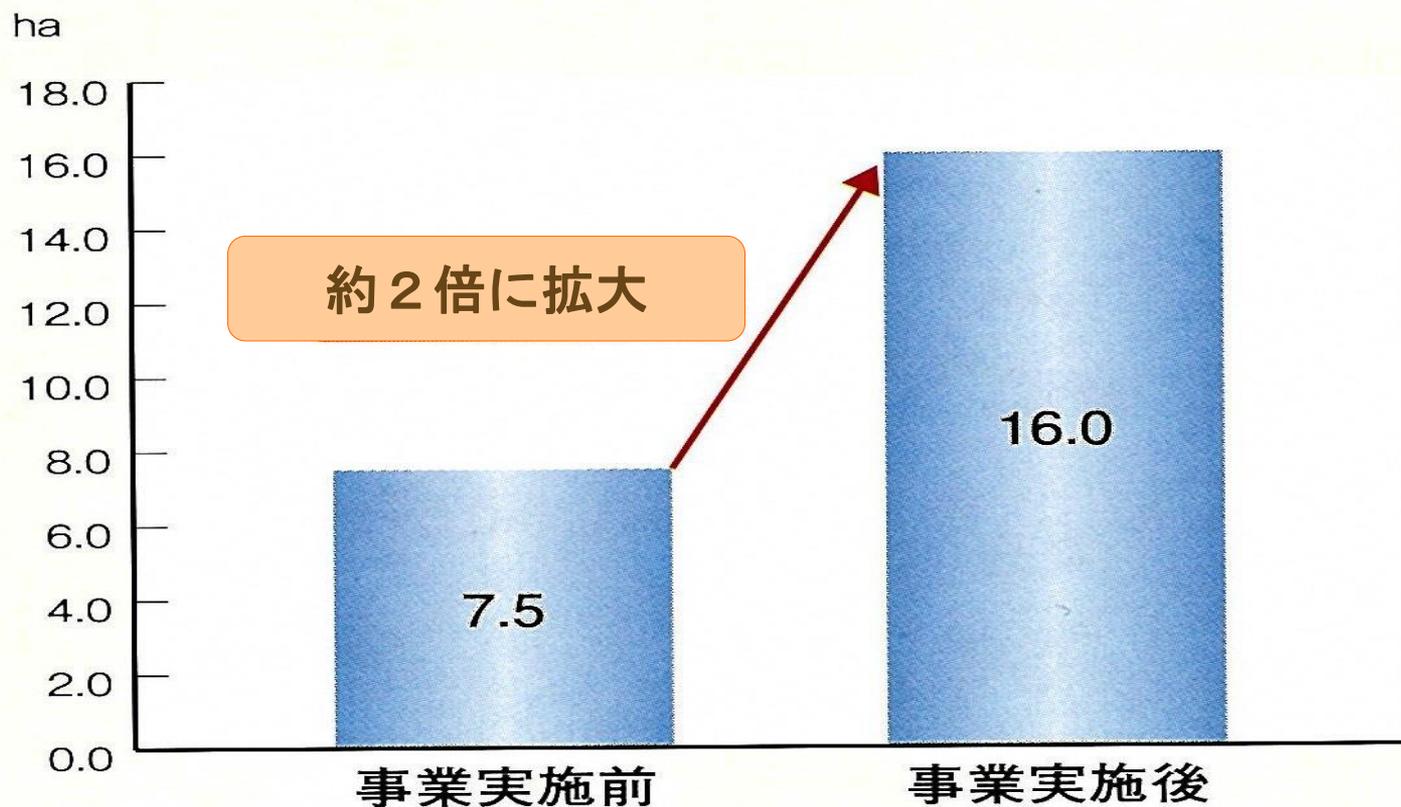
時間/10a



この時間は
どこに
消えたか?

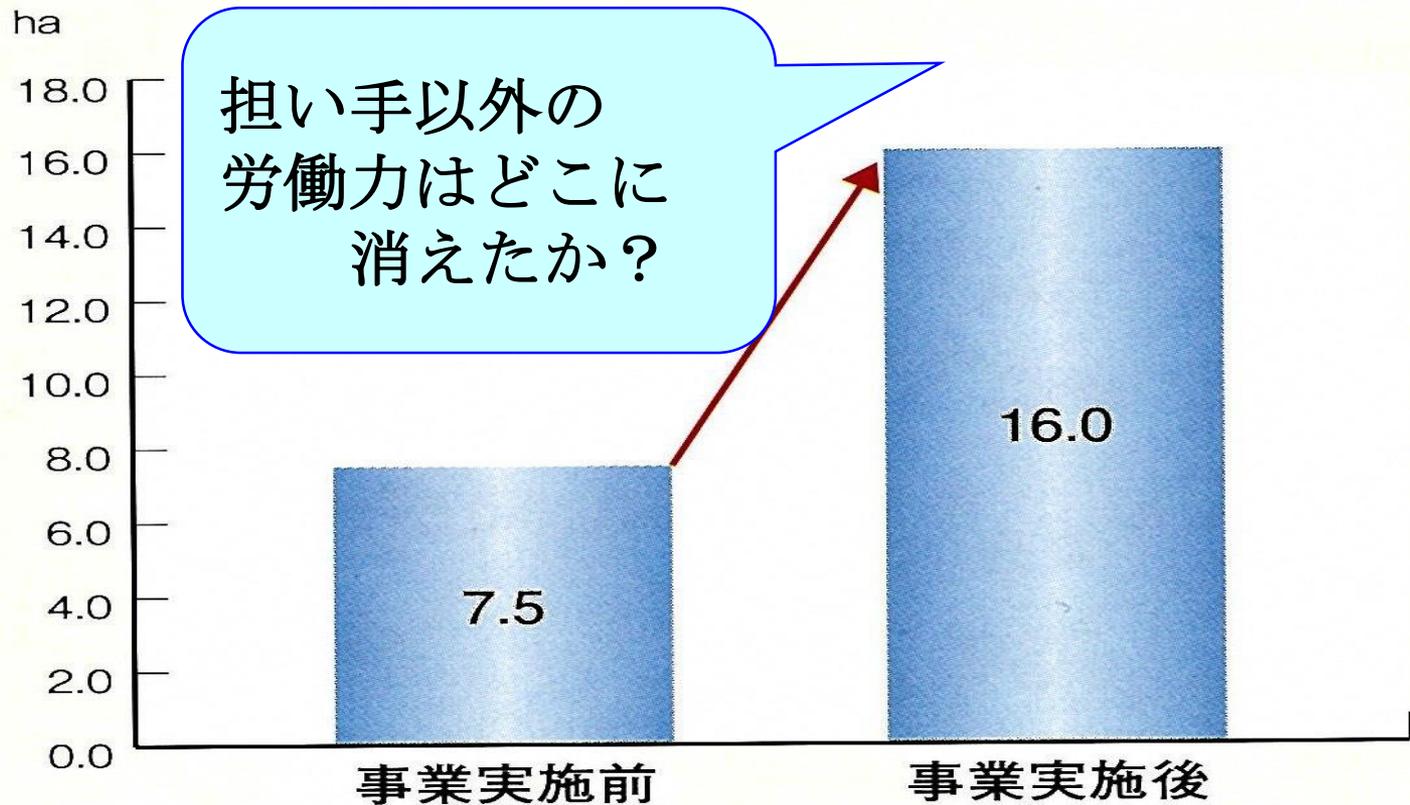
もたらされた大きな効果Ⅲ

担い手の経営規模



効果の裏の大きな損失

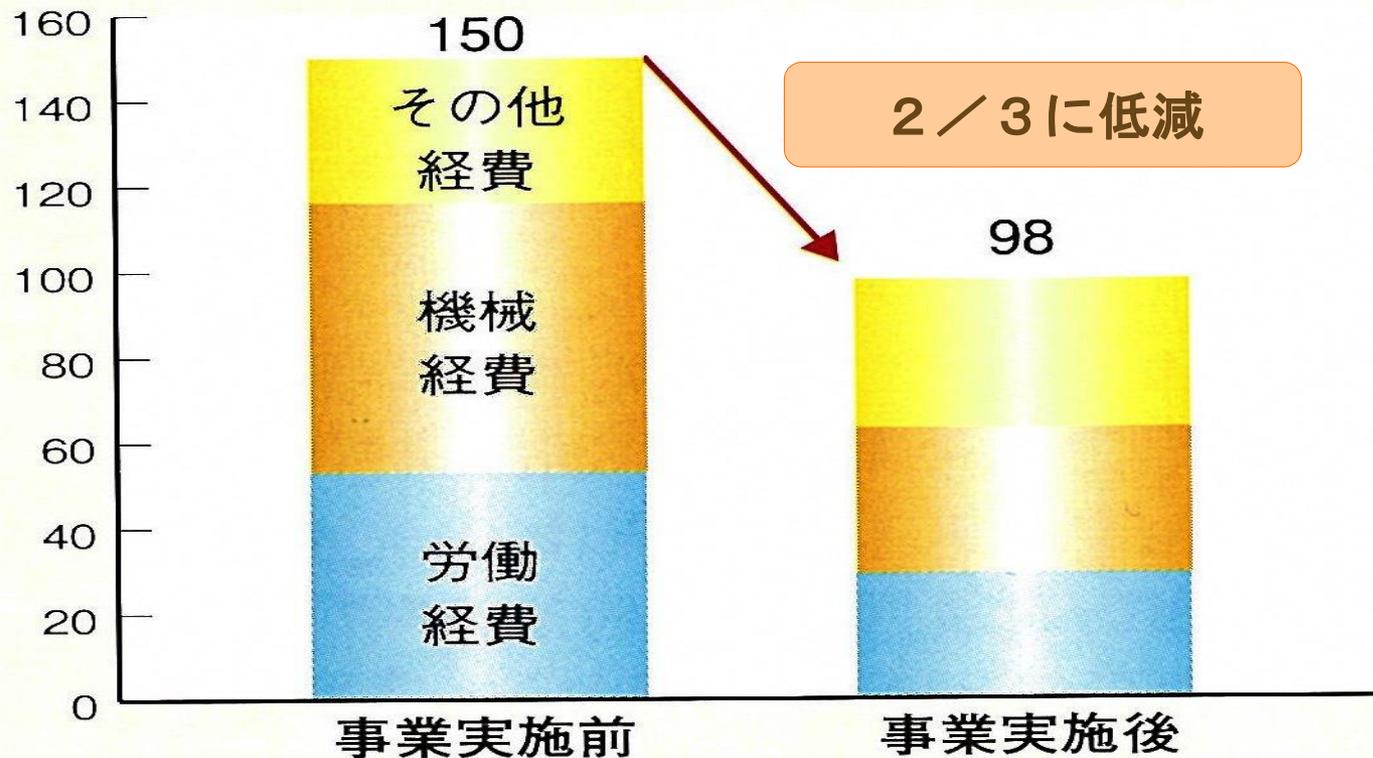
担い手の経営規模



もたらされた大きな効果IV

稲作生産費の低減

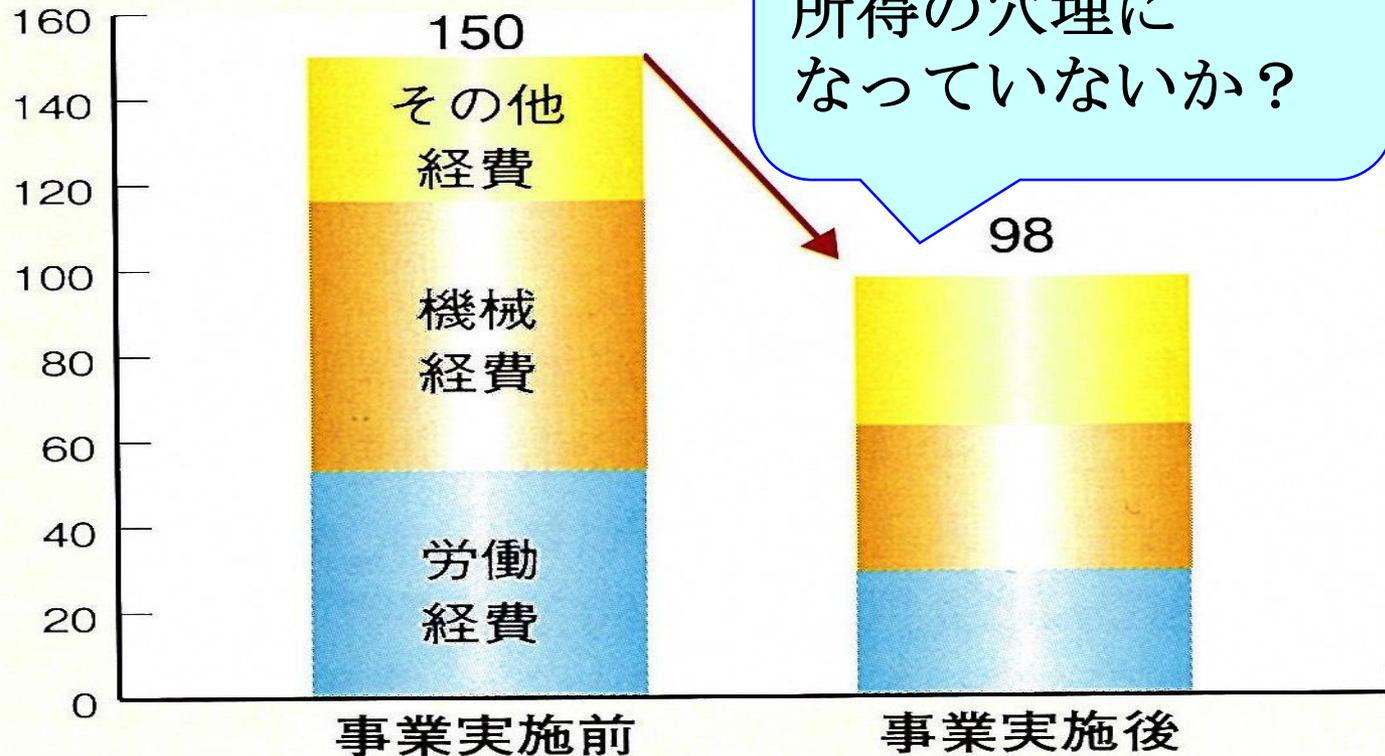
千円 / 10a



効果の裏読みですが

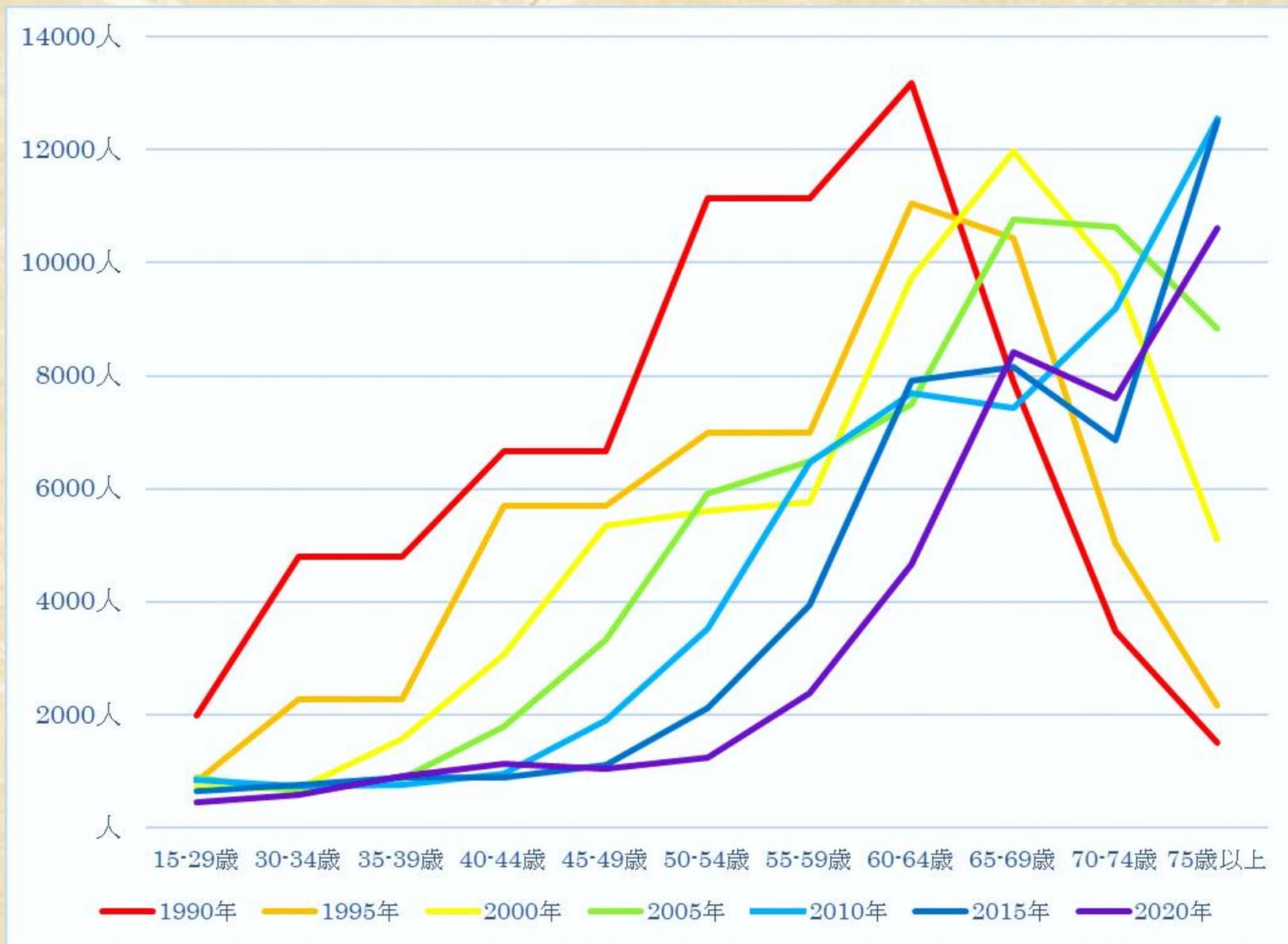
稲作生産費の低減

千円 / 10a



この分が
所得の穴埋に
なっていないか？

基幹的農業従事者の年齢構成(山形県)



出典：農林水産省「農林業センサス」

注：基幹的農業従事者とは、自営農業に主として従事した15歳以上の世帯員（農業就業人口）のうち、
普段の主な状態が「主に仕事（農業）」である者で、主に家事や育児を行う主婦や学生等を含まない。

**最近のハナシ…
(各種計画づくり)**

「国土の管理構想」の位置付けとねらい

- 現行の国土利用計画（H27.8月閣議決定）で示された方針に基づいて検討を進めてきた、人口減少下の適切な国土管理の在り方を示すもの。
- 分野横断的・統合的に国土全体の管理の在り方を提示。国だけでなく、都道府県・市町村・地域における国土管理の指針となるもの。
- これに基づき、特に中山間地域などを中心に、市町村や地域における実践的な取組が進むことを期待。

「国土の管理構想」の考え方のポイント

- 都道府県・市町村・地域（集落等）の各レベルで、人口や土地の管理状況等についての現状把握・将来予測を行い、目指すべき将来像と土地の管理の在り方を示す管理構想を策定。市町村や地域では、これを地図上に見える化（管理構想図）。
- 生活環境の維持や地域活性化などの地域課題と、生活の基盤となる土地利用・管理を一体的に考える。特に、地域住民自ら話し合い、地域の資源や課題、将来像、具体的な取組などを検討・共有することが重要。
- 人口減少下では、全ての土地についてこれまでと同様に労力や費用を投下し管理することは困難。優先的に維持したい土地を明確化し、取組を進めることが重要。管理方法の転換や管理の縮小（場合によっては物理的管理を行わず見守りのみ）も考える。
- 個別法等で方向性が示されているものはそれに準拠しつつ、分野横断的な連携・調整の視点に立って市町村・地域管理構想を策定。要素が含まれていれば、他の計画でも市町村管理構想として取り扱うものとする。

「国土の管理構想」を踏まえたこれからの取組

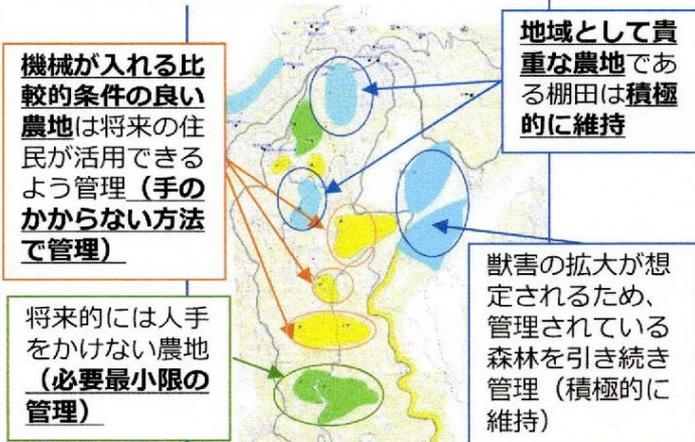
- 「国土の管理構想」を次期国土利用計画や国土形成計画に反映させる。
- 都道府県・市町村・地域の各レベルでの管理構想の取組を推進する。
- 特に市町村や地域レベルでの具体的なかつ実践的な取組を進めるため、取組事例・効果や策定方法等をわかりやすく整理したマニュアル等の作成やモデル事業（愛知県東栄町ほか）の実施を予定。

長野市中条地区地域管理構想の取組事例

○現況図及び将来予想図の作成

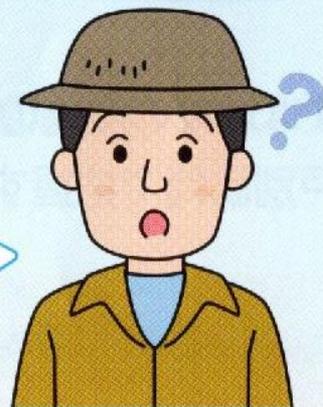


○地域管理構想図の作成



令和5年4月1日(予定)から「人・農地プラン」の名称が 「地域計画」に変わります。

これまでの「人・農地プラン」と「地域計画」では何が違うの？
具体的にどんなことが必要になるの？



これまでの主な協議内容

プランの実質化

- 農業の将来のあり方
- 農地中間管理機構の活用方針
- 基盤整備事業の取組方針
- 多様な経営体の育成・確保の取組方針



今後必要となる協議内容

地域計画

- 10年後に目指す地域の農地利用(目標地図)
- 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標
- 農用地の集積・集約化の取組
- 農業用施設の整備に関する取組
- JA、サービス事業者等による農作業受託等の活用方針

※「地域計画」の作成には、令和5年度から2年間の期間が充てられる予定です。

10年後、20年後を考えた構想づくり？

将来を予測するのが難しい…

未来予測が難しくても
過去を振り返ることならできるはず

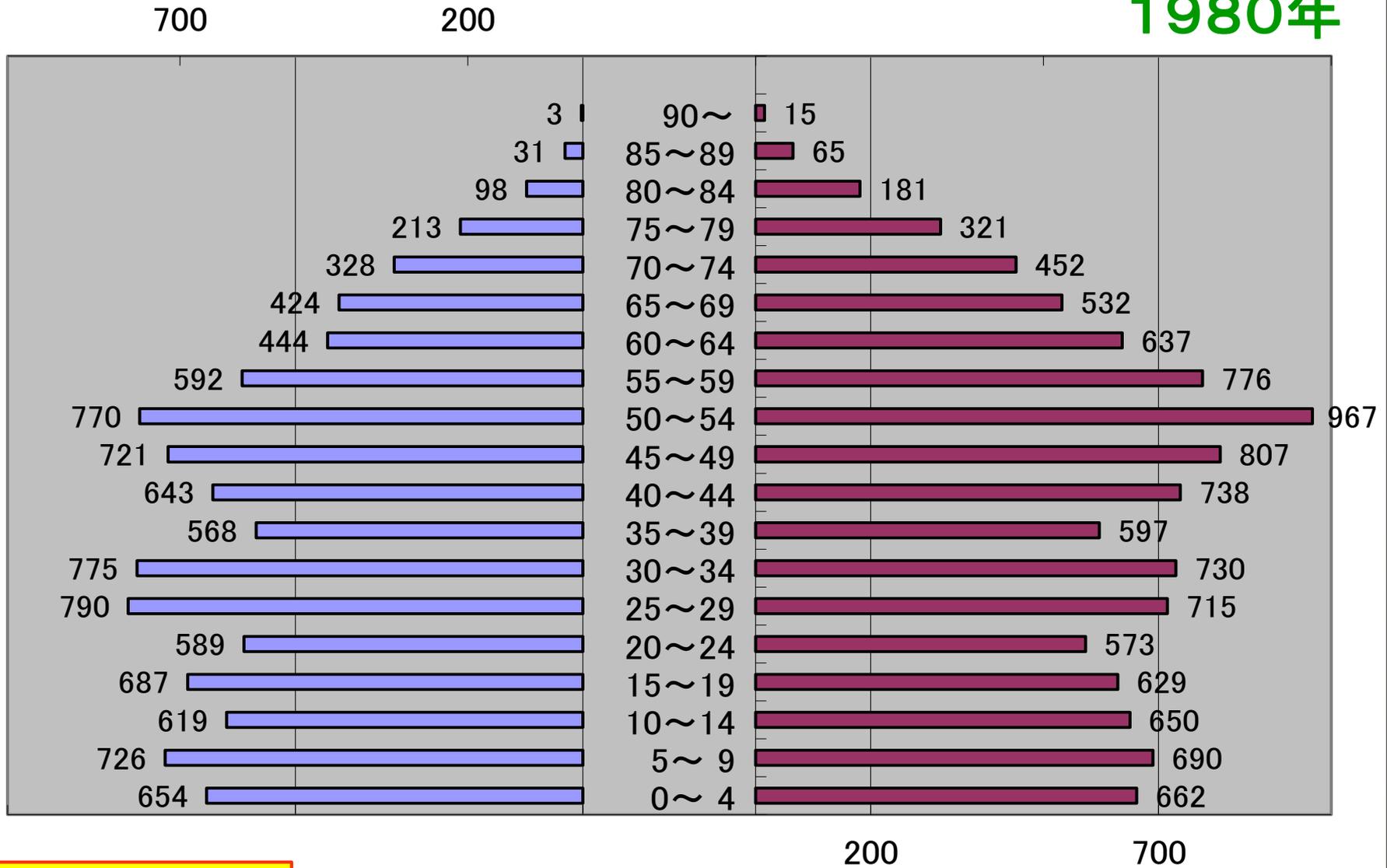
令和になったいま…

「振り返り」によって町を診よう！

事例の検証

山形県〇〇町

男女別年齢別人口(昭和55年国勢調査) **43年前** **1980年**

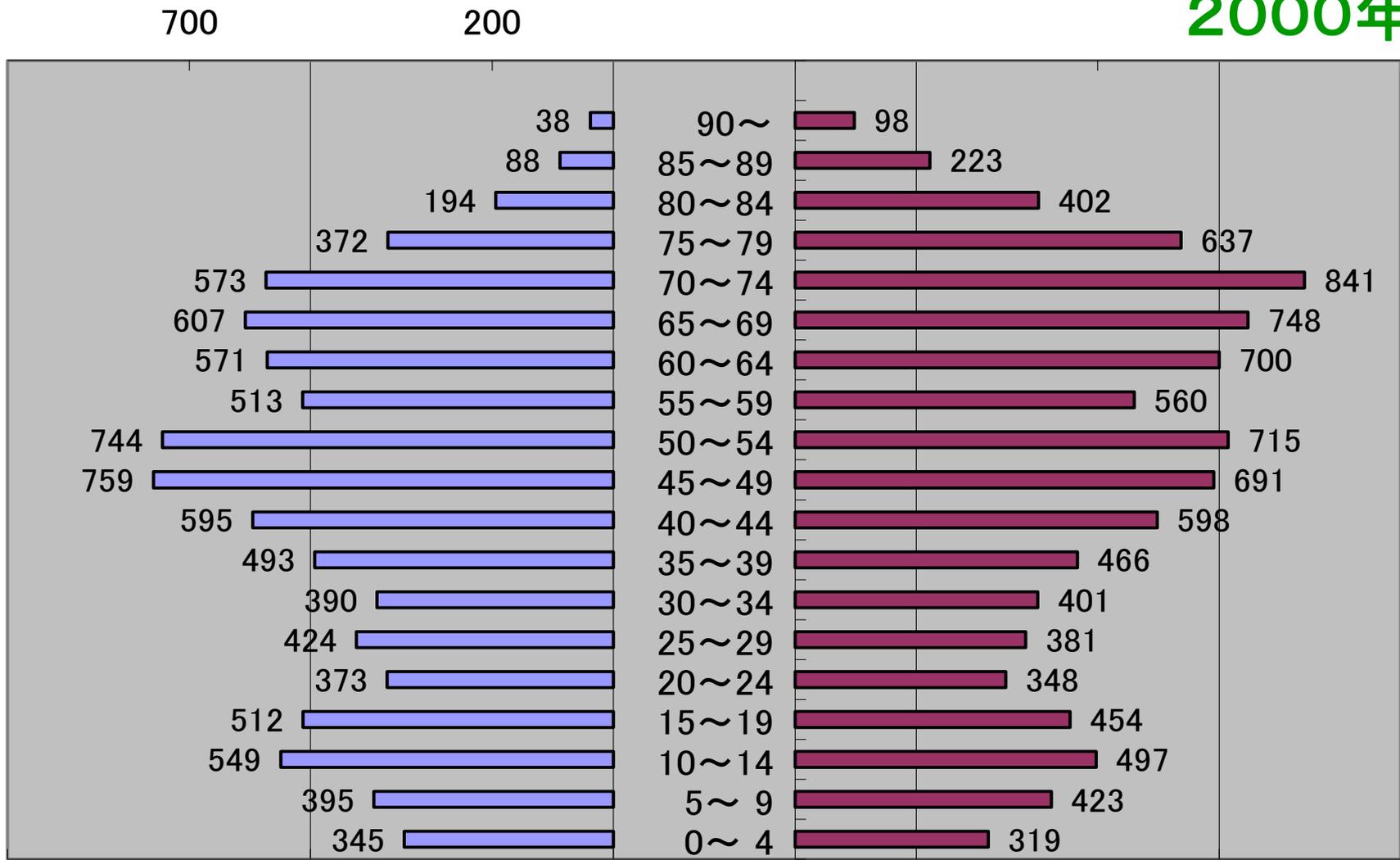


高齢化率
13.1%

■女 □男

20,412人

男女別年齢別人口(平成12年国勢調査) **23年前** **2000年**



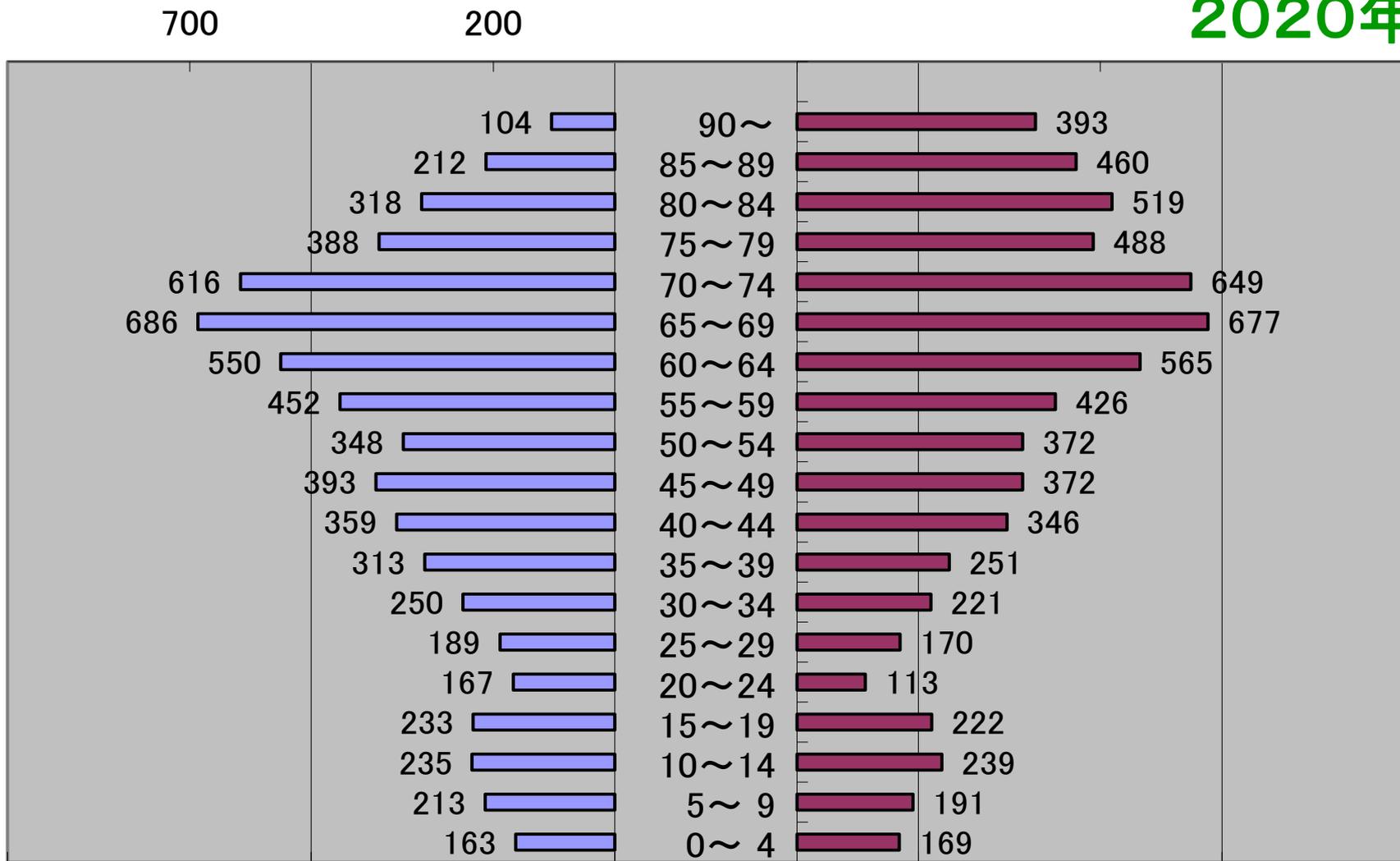
高齢化率
26.7%

■女 ■男

18,037人

男女別年齢別人口(令和2年国勢調査)

3年前
2020年



高齢化率

42.3%

■女 □男

13,032人

読み取れる事実（状況2）

・昭和55年（15～64歳） 13,748人



7,436人の減少
（▲54.1%）

・令和2年（15～64歳） 6,312人

・令和2年（人口ビジョン）

6,556人

・令和22年（人口ビジョン）

4,539人

▲244人

読み取れる事実（状況3）

・昭和55年（15歳未満） 4,001人



2,791人の減少
(▲69.8%)

・令和2年（15歳未満） 1,210人

・令和2年（人口ビジョン）

1,290人

・令和22年（人口ビジョン）

1,320人

} ▲80人

〇〇町の人口推移

山形県〇〇町

年齢層	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
0~4	1,316	1,203	1,031	798	664	543	440	369	332
5~9	1,416	1,326	1,201	1,041	818	662	554	454	404
10~14	1,269	1,428	1,309	1,193	1,046	813	676	577	474
15~19	1,316	1,086	1,154	1,086	966	798	613	507	455
20~24	1,162	939	737	791	721	603	431	361	280
25~29	1,505	1,254	970	794	805	737	560	462	359
30~34	1,505	1,515	1,224	941	791	803	686	555	471
35~39	1,165	1,508	1,488	1,204	959	760	798	697	564
40~44	1,381	1,126	1,478	1,478	1,193	932	753	793	705
45~49	1,528	1,354	1,099	1,473	1,450	1,169	928	728	765
50~54	1,737	1,506	1,311	1,094	1,459	1,431	1,146	886	720
55~59	1,368	1,683	1,468	1,275	1,073	1,437	1,409	1,131	878
60~64	1,081	1,314	1,628	1,406	1,271	1,059	1,401	1,398	1,115
65~69	956	1,017	1,238	1,547	1,355	1,203	1,013	1,354	1,363
70~74	780	845	918	1,130	1,414	1,263	1,123	960	1,265
75~79	534	627	719	759	1,009	1,248	1,113	995	876
80~84	279	348	469	527	596	790	1,039	939	837
85~89	96	149	185	273	311	411	532	710	672
90~	18	43	78	85	136	190	265	331	497

〇〇町の人口推移

山形県〇〇町

年齢層	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
0~4	1,316	1,203	1,031	798	664	543	440	369	332
5~9	1,416	1,326	1,201	1,041	818	662	554	454	404
10~14	1,269	1,428	1,309	1,193	1,046	813	676	577	474
15~19	1,316	1,086	1,154	1,086	966	798	613	507	455
20~24	1,162	939	737	791	721	603	431	361	280
25~29	1,505	1,254	970	794	805	737	560	462	359
30~34	1,505	1,515	1,224	941	791	803	686	555	471
35~39	1,165	1,508	1,488	1,204	959	760	798	697	564
40~44	1,381	1,126	1,478	1,478	1,193	932	753	793	705
45~49	1,528	1,354	1,099	1,473	1,450	1,169	928	728	765
50~54	1,737	1,506	1,311	1,094	1,459	1,431	1,146	886	720
55~59	1,368	1,683	1,468	1,275	1,073	1,437	1,409	1,131	878
60~64	1,081	1,314	1,628	1,406	1,271	1,059	1,401	1,398	1,115
65~69	956	1,017	1,238	1,547	1,355	1,203	1,013	1,354	1,363
70~74	780	845	918	1,130	1,414	1,263	1,123	960	1,265
75~79	534	627	719	759	1,009	1,248	1,113	995	876
80~84	279	348	469	527	596	790	1,039	939	837
85~89	96	149	185	273	311	411	532	710	672
90~	18	43	78	85	136	190	265	331	497

これからの計画づくりは？ 実践ありきの行動計画づくり

- あてがわれた計画ではダメだ！
- 自分ごととして自らが参画！
- 実践のない計画はいらない！
- 成果が見える仕組みづくり！

どちらにしても
いま何が必要なのか？
それを身内で徹底的に
話し合うことです！

(※身内：地域)

地域が生き生きするために
どういう視点が必要なのか

- 現役世代と若者世代が対等に
話し合い出来る環境の存在
- 互いの考えを認め合える関係づくり
- 互いに補う関係づくり

地域が動き出さない理由は？

- モノづくりだけではダメだった
- コトおこしをやってこなかった

これは大問題で反省点！

- ★お金だけでは解決できなかった現実
- ☆あてがわれたただけでは満足できない

現場の実験結果から読み取れることは？

- ・ 青少年層を減らさないことが必須条件
- ・ そうなるために必要なことは何か？

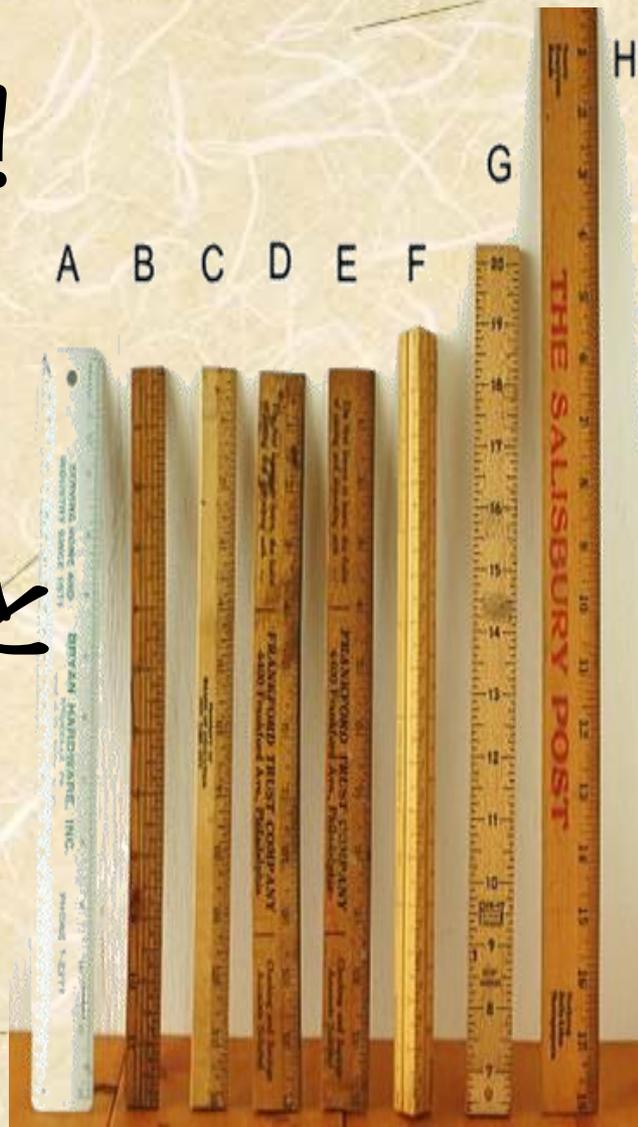


それは若者の
ふるさと回帰しか
手が無い

自分物差しを持つとう！



すりこみをかけること



第2の実験、そして検証段階

若者をふるさとに向かわせるもの

若年層体験と群（共同体感）

自分スイッチは誰が入れるのか

自分のタイミングで自ら



関心が無ければ参加はしない

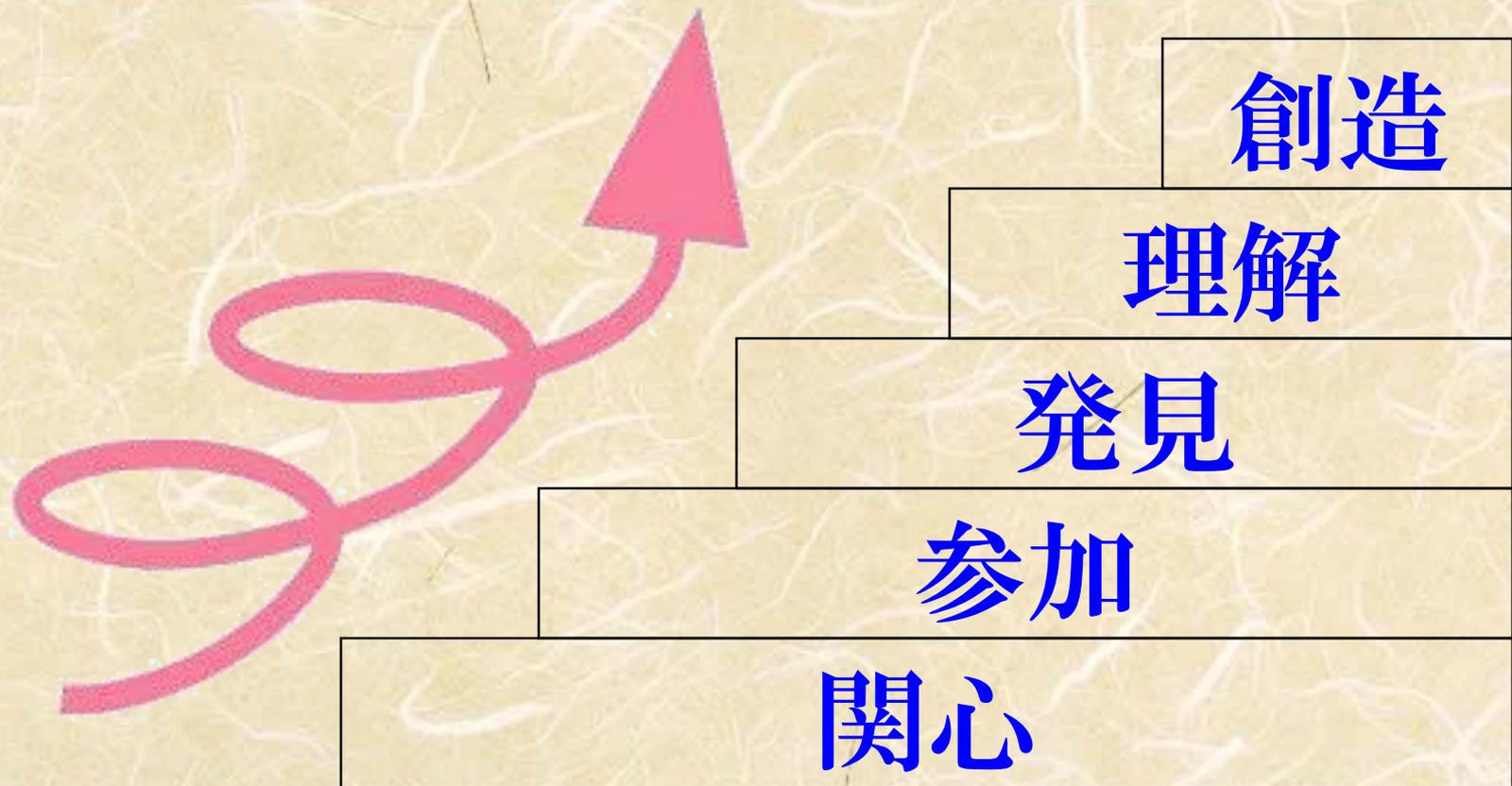
参加しなければ発見はできず

発見が無ければ理解はできない

理解できなければ

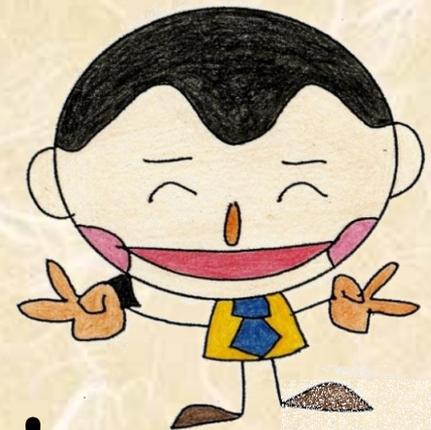
新たなコト(創造)は生まれない！

踏み外しは危険！ 発展の階段
全てのはじまりは関心から！



地域が一体になるから
できることが必ずあるはず
皆さんの役割が重要です

関心→参加→発見
→理解→そして創生
全て自分ごととして！



@nobu

